

みんなの居場所

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、語、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和8年2月13日(金)

【徒然】

来月7日PTA主催の強歩会が実施される。令和2年度当初から取り組み始めたウォーキングの効果が発揮できるだろうか。今回の強歩は4.3kmに挑戦するが、子ども達のモチベーションはとても高いようだ。大人が考える常識な子ども達には関係ない。参加する子ども達も「絶対歩き通す」と口を揃える。強歩会の様「挑戦」し、乗り越え「達成」し、成就感を味わえる行事は案外と少ない。参加する子ども達はお金では買えない財産を手に入れるだろう。

卒業前編 「自立性を高める」

丁度この時期、6年生は「友達と離れたくない」「一人になりたい」という気持ちが強くなっています。スマホを持って、四六時中誰かとながっていないと不安になり、スマホが手放せなくなる傾向があります。友達の条件でこんなことを聞いたことがありませんか。「インの返事は5分以内しないと友達じゃない」。って。大人の世界では「センス極まりありませんね。精神的に自立できていないから仕方ないのかも知れません。中学校の3年間はこの「自立性」の基礎を養う絶好の機会です。友人関係が広がり、また多様な価値観に触れることができ、自分自身の価値観を育てる良い時期でもあります。そのためには、自分自身で向き合う、ゆったりに時間がないといけません。SNSは早急に断った方が良くも知れません。自分と対話する中で自立性を養い、価値観を培っていくのです。

では具体的にどうしていかと言われると困るのですが、例えばこんなのはどうでしょう。夏休みや冬休み、春休み、時間があるときに思い切って遠くにいる親戚の家に旅行させるのが……。今の時代でできるかわかりませんが、そういうのは、私は中3の夏、受験勉強放ったらかして、友達（現在、名古屋大学のスポーツ心理学の教授です。）と自転車で天草まで行ったことがあります。1泊（寝てませんけど……）2日の野宿です。そこに行ったかといつて姫市町といつていけません。懐かしいなあ。

中学校は「教科担任制」

中学校へ入学すると、小学校とは違った学習形態に戸惑うことがあります。私事でいうと、私が担任の先生が代わることは新鮮なもので戸惑いもありました。とはいえ、その中でも、それぞれの教科によって、あんなの仕方も違いますが、連絡の方法も違います。宿題の量や種類も違います。中学校で授業が始まりましたが、初めのうちは、流れに慣れるのが大変でした。そのうち、それぞれの先生方の個性を感じるようになって、その中に楽しさを覚えるようになってきました。また、先生方のせいでも何気ない仕草に、親しみを覚えるようになってきます。そのような先生方と、個人的に話をする機会がきっかけとなって、その教科が好きな教科になったり、得意教科になったりします。中1当時の私の得意教科は英語でしたが、気づかずに英語の点数が高かったのは英語でした。英語の先生は、恥ずかしがりやな声を出していた私に、よく声をかけてくださいました。ちよつとしたことがきっかけで、グッと伸びるのも中学生の特色かも知れません。子ども達には、中学入学後早く生活に慣れ、学習と部活、生活の3つを確立してほしいものです。

シリーズ「自分を語る」#75

学校の変遷は早い時期から確認できました。私は特に何かをいたしてはいませんが、逆に子ども達に仕事をさせたのです。学校の活動の中で、教師の仕事と考えられているものを、子ども達に任せようとは思ってはいないかと考えると、多くの仕事を任せました。その仕事を単に「ツール」に利用して、負担が少なく済むようにして、成功体験を積み重ねていきました。あれもあつた頃に集団が変容しましたね。変わっていく姿は感動的でもありました。子ども達も面白がって、多くの係活動を設定しました。面白いのは「澤田先生係」でした。休み時間に、私がよく子ども達に雑用をさせたので、肩こみをさましたりしていたので、そのための係ができた訳です。その係を希望するのは何故か、いわゆる「悪口」が多く、その子たちはそれまでにあまり成功体験をしていなかったのか、私が肩こみを褒めるという調子に乗って時間延長で肩こみをしてくれました。そんな子ども達も外で遊びましたね。同じレベルで走り回る年齢だったので、鬼ごっこは子ども達から「センス、はやっ」なんて言われて、更にはい気になって遊び回りました。それが結果的に、集団に悪影響を与えていた一部の児童を、こちらに取り込むことになり、私は大声で怒鳴り散らす指導をする必要もありませんでした。穏やかに子ども達に「あれやっ」といって、あつた。あつた。あつた。子ども達も認められて良い気分、私も他の仕事に時間が取れて良い気分でした。子ども達に仕事をさせる、主体的に仕事をさせるということ、学校全体に活気があふれます。

学校が安定すると、私がやってきたのは3ヶ月のプランで学校の目標を決めていくというでした。4月の時点で学校の1年間の目標は決まっています。その目標との整合が取れる範囲で色んな目標を設定します。5年生担任で設定した4つの目標は次の通りです。

- ① ナイトハイク（夏休みの強歩会）に向けて決めたことをやり抜く
 - ② 運動会の成功に向けて決めたことをやり抜く
 - ③ 陸上記録会に向けて決めたことをやり抜く
 - ④ 5年生の思い出しへの6年生に向けて決めたことをやり抜く
- 私から5年生児童に課したナイトハイクの距離は3.3kmでした。玉名町小学校で検証済みの距離です。では、ナイトハイクを全員が歩き通すために何をすべきなのか、これを担任の私が言っています。これはダメです。子ども達に考えさせます。初めに「ナイトハイクってどんな行事？」という問い、私がオリエンテーションします。この話を聞き、相違ない体力と精神力が必要だということは何となく理解するのですが、具体的に何をしなければならぬのかについては、来ていない様子でした。そこで私はこう言いました。
- 「4年生は朝から何やっている。実はあれ、お前達と一緒に歩いたために、そして負けないために毎日やっていたよ。」
- 子ども達には、朝から4年生がやっていたランニングの周のランニングが浮かんでいました。そして、ほくほく笑って澤田でした。（つ）（つ）